



日本パビリオン出展について

総務省 国際戦略局 国際経済課 情報通信国際戦略交渉官

ふくしま ちえ
福島 千枝

MWCバルセロナは、2025年には10万人を超える来場者、2,900社以上の出展者が参加した、スペイン・バルセロナで開催される世界最大級のモバイル関連展示会である。総務省では、日本の優れた情報通信技術を世界に発信するとともに、日本企業の海外展開を後押しするため、MWCバルセロナに日本パビリオンを出展している。日本パビリオンは、スタートアップや中小企業など、将来の成長が期待される企業にとって、国際的な舞台で自社の技術やサービスを紹介できる貴重な機会であり、世界中の顧客や投資家、パートナー企業と出会う場として大きな意味を持つ。

MWCバルセロナ2025における日本パビリオンには、16の日本企業が出展し、5G及びBeyond 5G、AIなど、日本が強みを持つ分野に関する技術やサービスが紹介され、来場者から高い関心を集めた。展示各社は、工夫を凝らした展示やデモンストレーションを通じて技術力を発信し、製品やサービスの技術的な特徴や活用事例などを積極的に紹介した。総務省では、スペイン語・英語・日本語対応

可能な通訳・来場者対応スタッフを配置し、来場者と展示各社とのコミュニケーションの円滑化と展示の発信効果の拡大を図ったほか、期間中に、ネットワーキングを目的としたドリンクレセプションも開催した（図）。

展示各社と海外の企業・関係者との間では、自由で活発な交流が行われ、協業の可能性について話が及んだり、具体的なプロジェクトへとつながる可能性のあるやり取りが行われたりしたとの報告も寄せられている。これらのフォローアップ・具体化はもちろん、出展を通じて得られた現地での経験やフィードバックを生かし、自社の製品・サービスの向上や海外展開戦略の精緻化が図られていくことを期待している。

総務省としては、引き続き、MWCバルセロナへの参加を通じて、日本のICT分野における技術力を世界に示すとともに、日本の中小企業やスタートアップ等に対し、国際的なビジネスの現場に触れ、新たな挑戦に踏み出すきっかけとなるような機会を提供していきたいと考えている。



■図. 日本パビリオンの様子